

広報 ふたば

2015
9月号
災害版No.52



表紙写真：旗差し物を風にきしませ 威風堂々の出陣



ふと、ふるさと。
双葉町。

集まれ！ふたばっ子2015



夏休みの思い出づくり

8月1日、2日いわき市スパリゾートハワイアンズにおいて、将来の双葉町を担う子どもたちが、様々なふれあいの活動を通して心の交流を図り、双葉町の子どもとしての意識や自覚を持たせ、絆の維持に努めることを目的として、「集まれ！ふたばっ子2015」が開催されました。避難先から双葉南小学校児童25人、双葉北小学校児童24人、双葉中学校生徒18人、高校生6人、町立学校の教職員、保護者、福島大学生や埼玉県コーチみらいのボランティアの方々など221人が参加しました。参加した皆さん、1年ぶりの再会を喜び、友情を温め合いました。受付では、久しぶりの再会に抱き合つて喜ぶ姿があちらこちらで見られました。

また、異動により双葉町の小・中学校を離れた先生方も参加し、子どもたちの成長に目をほころばせていました。会場には都合により参加できなかつた先生方からの激励のメッセージが掲示されました。

全体セレモニー

全体会では、主催者を代表して半谷淳教育長があいさつし、来賓として伊澤史朗町長が「友達と語り合い、交流を通して楽しい思い出を作つてほしい。保護者の皆さまには、お互いに情報交換と親睦を深めていただきたい。双葉町としても魅力ある住んで良かったと思えるまちづくりを目指し、美しいふるさとを取り戻すため一刻も早い復興に取り組みます」と祝辞を述べました。次に、佐々木清一双葉町議会議長がお祝いのことばを述べられました。

双葉中学校の卒業生で、現在は拓殖大学2年生の大川義秋さんによる箏、三味線、キーボードの演奏が行われました。「さくら変奏曲」、「六段の調べ」や「ジブリメロディ」、「じょんがら節」、「花は咲く」などを昔から伝わる曲や現代の曲などを演奏しました。一つひとつ曲が心に響き、美しい音色に魅了された感動的なステージでした。

また曲の合間には、双葉町での思い出話や子どもたちへの温かいメッセージが贈られました。



オープニングミニコンサート

震災前の双葉町の美しい映像を鑑賞

子どもたちが双葉町のことを忘れないよう、双葉町を思い出すきっかけになる震災前の町の主な施設や伝統芸能、避難先でのそれぞれの様子、町民の方が双葉町の思い出を語るシーンの映像がスクリーンに映し出され、参加した皆さんは食い入るように映像を見つめていました。



山田のじやんがら念佛踊りの発表と体験

山田芸能保存会の14人の皆さんによる双葉町の伝統芸能「山田のじやんがら」の発表を鑑賞しました。



子どもたちからは「双葉町に帰りたい」「科学者になつて放射能を失くしたい」「今、将来の夢のためにがんばっている」などの意見が出され、保護者の方からは、「双葉町が無くなってしまうのではないか心配」「双葉町とのつながりを持ち続けていきたい」「双葉町は心のよりどころであり、いつまでも記憶にとどめておきたい」などの意見が出されました。

最後に代表のグループの発表が行われました。
小学生、中学生、高校生、保護者ごとに小グループに分かれ、先生方や福島大學生、埼玉県コーディネーターとなつて自己紹介や双葉町に対する今後の思いや願いの発表、今悩んでいること、困っていることなどについて話し合いをしました。

世代別グループ協議



夕食はバランスで順番に並んでそれぞれお皿に料理を取り分け、友達と一緒にテーブルを囲んで楽しくいただきました。



楽しい夕食

菊地安会長は「伝統芸能を絶やさないために、山田地区の人でなくともやりたいと思つた人は一緒に踊りを練習して、継承していくつてほしい」と呼びかけました。

また、体験コーナーとして会場内から希望者を募り一緒に太鼓や鐘を演奏して、じやんがらの練習を行いました。

震災前の双葉町の美しい映像を鑑賞

震災前の双葉町の美しい映像を鑑賞

世代別グループ協議

児童・生徒作文発表…代表者がそれぞれの想いを発表しました

これまでの自分と願い

双葉南小学校代表
(いわき市立泉北小学校6年)

箭内
菜奈美さん



震災があつた時、小学1年生だった私は現在は6年生になりました。今、通つてゐる小学校には、双葉の友達や新しくできた友達もたくさんいて毎日楽しく過ごしています。私が今、一番興味を持つてがんばつてゐるのは、ピアノです。ピアノを弾くとリラックスできるから私はピアノが大好きです。

今年の発表会の曲がディズニーの曲に決まつた時は、とてもうれしくて毎日練習を一生懸命がんばりました。本番では、アリオスの会場の大さやお客さんがたくさんいて緊張してしまい、途中で間違えてしまつたけれど、演奏を終えるとたくさん拍手やきれいな花束をもらい、とてもうれしかつたです。次の発表会では上手に弾けるようにがんばりた

いです。来年は、中学生になります。私はテニスの部活に入りたいと思つてします。中学校は、勉強が難しくなると思うけど、勉強や部活など何にでも最後までがんばつていきたいと思います。



今のわたし、これからわたし

双葉北小学校代表
(長野県伊那市立高遠小学校5年)

廣田
愛乃さん



ここにちは。しばらく会うことができなかつた先生や友達、元氣でしたか。私は、震災の時、ふたば幼稚園の年長でした。大好きだつた幼稚園で卒園式ができなくて残念でしたが、

今も優しかつた先生方や一緒に遊んだ友達との思い出は忘れていません。今、私ががんばつてすることは、友達に誘われ、2年生の時に始めた習字です。4年生の時に1級になりました。墨を使って字を書いていると、心が落ちつきます。自分が満足できる字が書けるととてもうれしくて達成感があります。そして、私は将来、習字の先生になりたいと思つています。

今年の3月まで生活していた愛知県蒲郡市では、楽しくておもしろい先生と友達に囲まれて、学級長や合唱コンクールの指揮者を何度も経験して、吹奏楽部ではクラリネットを担当し、練習しました。いつも協力してくれる先生や友達がいたので、色々な事にチャレンジしてどんな時でも努力する大きさを学びました。

4月から住み始めた新しい所の学校にもだいぶ慣れて友達もできました。おはやしクラブという活動に参加して、横笛を吹いています。2学期から3学期にお祭りが何度があるので、毎日練習しています。

双葉町での生活が、突然終わつて悲しかつたけれど、私にとつて新しいふるさとがいくつかできました。

今いる場所を大切にして、楽しい思い出をたくさん作りながら生活していくたいです。



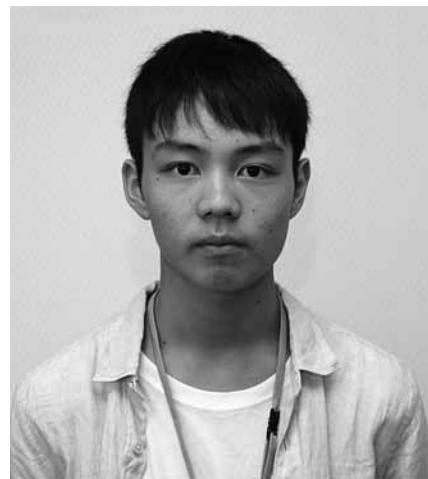
▲恩師等からの激励のメッセージが会場内に掲示されました



出会い

双葉中学校代表
(郡山市立安積第二中学校3年)

坂本 遥希くん

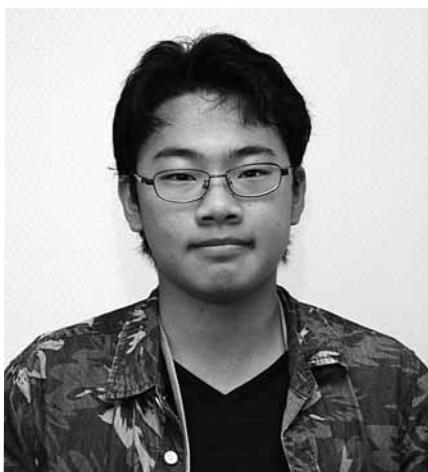


周りは敵ばかりじゃないかと思つていた自分が恥ずかしく、人の温かさが身に染みました。震災で失つてしまつたものもあるけれど、たくさんの出会いの中で、気づかされたことを忘れずに、相手を思ひやる心をしていきたいです。これからも出会いを大切に、今度はぼくが人を笑顔にできるよう、成長していきたいです。

今までのこととこれからのこと

高校生代表
(栃木県宇都宮短期大学付属高校2年)

小谷野 瑛人さん



震災から4年が過ぎ、ぼくは今、中学生活最後の年を過ごしています。中学校では、陸上部に所属し、東北大

</div

学校ごとに記念撮影

双葉南小学校



双葉北小学校



笑顔があふれた2日間

再会の記念に

双葉中学校



高校生



山本シユウ氏の講演会 ウォーターパークでプール活動

2日目は、大阪府門真市出身で、レモンの被り物をし、「レモンさん」というキャラクターでPTAの顧問やラジオ、テレビなどで活躍している山本シユウ氏による講演会とプールでの活動の2つに分かれて行われました。

「We are シンセキ!」「きず

なが救う 地域のみらい」と題した講演は、長屋育ちで、近所の大人のお節介に育てられたという山本氏、みんなが親戚のように付き合い、人生の幸福は心が喜んでいる時間が少しでも長く続くこと、という信条を持ち、「みんなシンセキなんだ!」と感じれば、もともと自分の中にある「愛」という優しい気持ちを引き出せるなど自身の体験談を交えた楽しい話に、会場内は笑いが絶えませんでした。強く心に響くまた聴きたくなるような講演会でした。



閉会式では、代表者3人から2日間の楽しかった思い出を振り返りながら、お礼と感謝を込めた発表がありました。

閉会式

プール活動では、お揃いのグリーンのキャップをかぶり、大プールや3種類のウォータースライダー、流れるプールで子どもたちが生き生きと活動していました。



ひとりで悩まずに相談しましょう!

9月10日から一週間は

自殺予防週間です

自殺対策を推進するためには、自殺について、誤解や偏見をなくし、正しい知識を普及啓発することが重要です。このため、平成19年6月に閣議決定された「自殺総合対策大綱」において、「9月10日の世界自殺予防デーに因んで、毎年9月10日からの一週間を自殺予防週間として設定し、国、地方公共団体が連携して、幅広い国民の参加による啓発活動を強力に推進」することとされました。

自殺予防週間は、当該期間中における集中的な啓発事業等の実施を通じて、国民に自殺や精神疾患についての正しい知識を普及啓発し、これらに対する偏見をなくしていくとともに、命の大切さや自殺の危険を示すサイン、また危険に気づいたときの対応方法等について国民の理解の促進を図ることを目的とするものです。

相談窓口

・よりそいホットライン

☎ 0120-279-338

(フリーダイヤル つなぐ さざえる)

岩手県・宮城県・福島県からおかげの方

・こころの健康相談統一ダイヤル

☎ 0570-064-556

・いわき事務所 健康福祉課

☎ 0246-84-5205

平日 8:30 ~ 17:00

町民の皆さまへ

9月11日で東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から4年6ヶ月が経過します。この間、町民の皆さまがふるさと双葉町を離れ、いまだに各地で厳しい避難生活を送られておりますことについてまして、ご心痛お察し申し上げます。

震災以前の8月の双葉町は、各地区での盆踊り大会や山田、石熊ではじやんがら念佛踊りの伝統行事が行われ、例年地元の方やお盆で帰省された方々が旧交を温めていたのですが、今の双葉町ではそれも叶わない状況です。

しかし町の各自治会では、避難先において盆踊りや夏祭りを開催したほか、避難先の祭りへの参加などで双葉町に居住していた時とは違った形で参加された方々も多かつたこと思います。

7月30日に第一回双葉町復興町民委員会が開催されました。

本委員会は本年に3月に策定した「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」に掲げられた施策のさらなる具現化に向けて様々な意見等を求めるため設置されました。また本委員会には、高齢者等福祉部会、町民コミュニティ部会、復興産業等拠点部会の3つの部会と新産業創出分科会を設置し、各部会の議論を踏まえ、町の今後の復興に向けた各種事業（復興事業計画、再生可能エネルギー活用・推進計画、復興拠点基本構想）へ反映させることを考えております。

百歳賀寿
おめでとうございます。

8月15日、愛澤正江さん（羽鳥）がめでたく満百歳を迎えるました。



双葉町長 伊澤 史朗

町の復興につきましては、現在両竹、浜野地区の本格除染及び町内の道路や施設の拠点除染を行っており、双葉地方水道企業団による上水道管の現地調査も実施中であります。他の被災市町村と比較すると帰還困難区域が殆どを占める双葉町の復興は大変厳しい状況にあるものの、少しづつではありますが、復旧、復興を進めています。

「双葉町に住みたい」「事業を再開したい」「双葉町で復興の力になりたい」と考えている方々へ希望の持てる町の具体的な復興計画の策定及び復興拠点整備を推し進め、早期の双葉町への復興、帰町に資してまいります。

9月に入り、残暑と共に朝晩の涼しい気温と変化のある季節となりました。町民の皆さまにおかれましては、くれぐれも健康に留意され、お元気でお過ごしになられますようお願いいたします。

温かいご支援を ありがとうございます



8月17日、大和ハウス工業株式会社福島支社（支社長渡辺靖彦様）より、車イスを利用される方の緊急避難や移動用として、押すだけでは移動が困難な場所も引くことでスムーズに移動できる「けん引車いす補助装置 JINRIKI QUICK（じんりきクイック）」1台をご寄附いただきました。

行政区長会からの要望



8月7日、双葉町行政区長会より、石田翼会長、大橋庸一副会長、松木秀男事務局が来庁され、伊澤史朗町長、佐々木清一町議會議長に「医療費の無料措置と高速道路料金の無料措置の継続」について要望書を提出しました。

伊澤町長は、「行政区長会の皆さまには避難生活が続く中、日頃より大変お世話になっております。只今、お受けしました要望は、町としましても多くの町民の皆さんのが望んでいることと受け止めているので、国に対して、引き続き強く要望していく考えです」と述べました。

復興への意見を集約

双葉町復興町民委員会

7月30日、第一回復興町民委員会がいわき事務所大会議室において開催されました。

復興・町民委員会は、双葉町復興まちづくり計画（第一次）に基づき、避難先における町民一人一人の生活再建と町民のきずな維持・発展に関する取組と町の復興に向けたビジョンとして策定された「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の具現化に向けた意見を求めるため、設置されました。

委員会は、町議会議員や農商工業団体の代表者、避難先の自治会長などで構成されております。また、「高齢者等福祉部会」「町民コミュニティ部会」「復興産業等拠点部会」の3つの部会と、「新産業創出分科会」を設置、本委員会と部会の2部制で構成され、具体的な課題について掘り下げた議論をいたいたものを取りまとめ、提言書として町に提出していただきました。

町は、委員会等での提言を踏まえ、事業計画の策定や復興に向けた取組に反映させてまいります。



伊澤町長は「双葉町の復旧・復興と町民の生活再建等に向けて活発なご意見をいただき、今後の町の復興に活かせるよう、建設的なご意見を取りまとめていただきたいと考えております。双葉町の復興が着実に進むよう町としても関係機関との協議を引き続き進めてまいります」とあいさつしました。

おりしも、福島県では、現況20%の再生電力を、2030年には、100%に具体化すべく設置企業に対する補助金交付等、时限的な施策を強力に打ち出しています。今回の再生エネルギー利用の発電施設の視察は、有意義な研修となりました。

区長会議では、伊澤史朗町長からのメッセージが朗読され、①昨年に引き続き、高速道路の無料化及び医療費の減免を町に要望すること、②東京電力（株）第一原子力発電所の汚染水問題等大変なリスクを抱えての廃炉作業の取り組みの現況視察を10月9日に実施すること、③その他として、各行政区からの現況報告及び情報交換が行われました。

※大橋庸一行政区長会副会長より記事のご提供をいただきました。

東北電力柳津西山地熱発電所は、平成7年に発電を開始、本年で20年目を迎え、1時間当たり6,500kW、約2,200世帯分の発電をしています。100%純国産のエネルギーを使用し、自然環境との調和にも積極的に配慮している等が特徴として理解することができました。

双葉町行政区長会 移動会議及び研修視察

双葉町行政区長会は、7月22日、23日、17行政区長全員の参加のもと移動区長会議と研修視察を開催しました。

一日目は、福島県柳津町の東北電力西山地熱発電所を視察。2日目は、喜多方市小国の会津電力（大規模太陽光発電）



会津電力は、地元資本により地産地消を目的に設立され、現在4カ所で太陽光発電所を運営し、1時間当たり、平均2,485kWを発電し、さらに今後、太陽光発電の他に小水力発電、バイオマス発電等に積極的に取り組む事業を展開するとのことでした。

双葉町においては、長期間、帰還困難区域であり、農業の再開は難しい現状を考えた時、会津電力のような今までに類を見ない発想のもとに地元資本によるエネルギーの地産地消を復興のための橋頭堡の一つと、行政区長会として共有しました。

平成27年度避難地域住民交流会のお知らせ

日赤主催

日本赤十字社福島支部では、広域に避難されている町民の皆さま同士の交流を図ることを目的として、交流会を開催します。

久しぶりに町民の皆さまが集い笑顔になれるよい機会となりますので、ぜひご利用ください。

○主 催 日本赤十字社福島支部

○共 催 双葉町

○期 日 10月8日（木）日帰り

○場 所 「飯坂温泉 ホテル聚楽」

福島県福島市飯坂町熱海西滝ノ沢町27

○対 象 者 双葉町民

○定 員 150人

○内 容 全国各地に離散している町民同士の交歓交流

(バイキング形式の昼食及び温泉入浴)

○費 用

・日本赤十字社負担：会場往復交通費（バス料金）、昼食代（アルコール類以外）及び入浴料

・参加者個人負担：バス乗降場所までの交通費、アルコール類飲料代等

○バス乗降場所

双葉町の各応急仮設住宅、JR会津若松駅、JR福島駅、JR郡山駅、JRいわき駅、JR原ノ町駅

○申込要件 双葉町民1組2名以内・先着150名

○申込方法 電話受付のみ

行程表（現時点での予定）

バス乗降場所	⇒ 飯坂ホテル聚楽到着	⇒ 開会式	⇒ 交流会
		10:00	開会式終了後～
⇒ 飯坂ホテル聚楽出発 ⇒ バス乗降場所			
	15:00	15:15	

※各バス乗降場所の出発及び到着時間については、参加者集約後の決定となります。

浜野行政区からのお知らせ

浜野行政区長 菅本 洋

大字総会（役員改選有り）、交流会を下記のとおり開催いたします。

記

○開催日 10月17日（土）1泊2日 総会…午後3時～（午後2時より受付）
交流会…午後6時～

○場所 小名浜オーシャンホテル＆ゴルフクラブ
いわき市泉町下川字大畑17 ☎0246-56-3311

○申込締切 9月17日（木）期日厳守願います。

○参加費 宿泊費…1人／16,700円、交流会（食事）…1人／8,300円
総会のみの出席もできます。

※会費は当日に徴収いたします。

申込先	・菅本 洋 ☎080-1655-8858
	・荒木 茂 ☎090-4317-6063



マイナンバーについてお知らせ

10月以降に通知カードを避難先の住所に簡易書留で送付いたします。

避難先を双葉町に登録している方については、居所情報登録申請書を提出する必要はありません。

総合健診・がん検診のおしらせ

平成27年度の町の総合健診・がん検診を下記の日程で行います。
 長期化する避難生活で、食事や運動の習慣が変化し、肥満や高血圧を発症する方も増えています。
 健診によって、ご自分の健康状態を把握し、病気の早期発見・治療につなげることや、
 不安が軽減されることが目的です。年に1度はかならず受けましょう。

【 福島県内に避難している方 】

意向調査をもとに、受診票や容器を発送いたします。

	月 日	場所	会 場	特定 健 診 ※	骨 粗 鬆 症	肝 炎	がん検診			
							肺	胃	大 腸	前 立 腺
総 合 健 診	9月5日(土)	福島	保健衛生協会健診センター 福島市方木田字水戸内19番地6	○	○	○	○	○	○	○
	9月7日(月)	南相馬	原町生涯学習センターサンライフ南相馬 南相馬市原町区小川町322-1	○	○	○	○	○	○	○
	9月25日(金)	いわき	平体育館 いわき市平字正内町6-1	○	○	○	○	○	○	○
	10月16日(金)	郡山	福島県農業総合センター 郡山市日和田町高倉字下中道116番地	○	○	○	○	○	○	○
	10月27日(火)	いわき	泉公民館 いわき市泉町4-13-11	○	○	○	○	○	○	○
	11月2日(月)	白河	国体記念体育館 白河市北中川原30	○	○	○	○	○	○	○
	11月14日(土)	いわき	勿来市民会館 いわき市錦町上川田21	○	○	○	○	○	○	○
	10月28日(水)	会津若松	会津アピオスペース 会津若松市インター西90番	○	×	○	○	○	○	○
乳 が ん	10月9日(金)	郡山	ビックパレットふくしま多目的展示ホールC (午前・午後)							
	10月27日(火)	福島	福島市保健福祉センター (午前・午後)							
	11月2日(月)	いわき	泉公民館 (午前・午後)							
	12月8日(火)	郡山	福島県農業総合センター (午前・午後)							
	12月17日(木)	いわき	勿来市民会館 (午前・午後)							
	12月21日(月)	いわき	保健衛生協会いわき地区センター (午前・午後)							
	1月18日(月)	南相馬	原町保健センター (午後のみ)							
	11月13日(金)	会津若松	河東保健センター							
子宮がん			医療機関での個別検診 対象者の方に個別に通知します。							

※心電図、眼底検査も受けられます。健康診査、後期高齢者健康診査を含みます。
 総合健診会場では県民健康調査もあわせて受検できます。



対象者となる方	骨粗鬆症 肝炎ウイルス 肺(X線) 胃(X線) 大腸 乳(視触+マンモ) 前立腺(PSA) 子宮(頸部)	40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳及び70歳になる女性 40歳になる住民で職場等で未受診の方 40歳以上の住民 30歳以上の住民 " 40歳以上の女性(住民)で職場等で受診機会のない方 50歳以上の男性 20歳以上の女性(住民)で職場等で受診機会のない方
---------	---	--

【 福島県外に避難している方 】

7月上旬に案内を送付しています(水色の封筒)。健診委託機関(結核予防会)に申し込みのうえ、受診してください。

避難先の変更等により、意向調査(福島県内)や健診の案内(福島県外)を受け取っていない方は、お手数ですが担当までご連絡ください。 健康福祉課 健康づくり係 ☎ 0246-844-5205

国民健康保険医療費のお知らせの送付について

「国民健康保険医療費のお知らせ」の送付は震災後停止しておりましたが、今年度は9月と3月に、双葉町国民健康保険に加入されている方の世帯主の皆様へ送付を予定しております。（世帯の中に受診者がいない場合は、送付されません。）世帯単位での作成となりますので、個別にお知らせすることはできません。

なお、このお知らせは、請求書ではありませんので、手続き等は不要です。また、所得税の確定申告で医療費控除を受ける際の領収書の代わりには使用できません。

このお知らせは、国民健康保険で医療機関等に受診した医療費をお知らせすることにより、健康管理への認識を深めていただくことや医療機関等を適正に受診していただくことを目的にお送りするものです。

医療機関の適正受診のために

- かかりつけ医を持ちましょう。
- 重複受診（同じ病気で医療機関を次々に変更すること）はやめましょう。
- 医療機関受診の際は、おくすり手帳を持っていきましょう。

【問い合わせ先】 健康福祉課 国保年金係 ☎ 0246-84-5205

内部被ばく検査のお知らせ

以下のとおり福島県所有の車載式ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を実施します。検査を希望される方は、事前申し込みが必要となります。検査希望日の10日前までに、検査申込書をお送りいただきか下記問い合わせ先までご連絡ください。

※ いわき事務所、埼玉支所での検査も随時受け付けています。

車載式ホールボディカウンター 巡回日程			
9月	14日(月)午前・午後、15日(火)午前	郡山市富田町若宮前応急仮設住宅	
	16日(水)午前・午後、17日(木)午前	福島市北幹線応急仮設住宅	
	18日(金)午前・午後	白河市郭内応急仮設住宅	
	24日(木)・25日(金)午前・午後	いわき市南台応急仮設住宅	
	28日(月)・29日(火)午前・午後	浪江町南相馬出張所	

検査時間は 午前が9時30分から12時まで、午後が1時から4時30分までです。

- ・1日70名までの検査が可能となり、検査費用はかかりません。
- ・検査会場までは各自自家用車等をご利用のうえお越しください。

【問い合わせ先】 健康福祉課 健康づくり係 ☎ 0246-84-5205

日本年金機構からのお知らせ

国民年金保険料「10年の後納制度」が平成27年9月末で終了します。

この機会にぜひご利用ください。

過去10年間に納め忘れた国民年金保険料を納付することで、将来の年金額が増えたり、納付した期間が不足して年金を受給できなかった方が年金受給資格を受けられる場合があります。

後納制度を利用するには、申し込みが必要です。詳しくは右記の専用ダイヤル、または最寄りの年金事務所へお問い合わせください。

※すでに老齢基礎年金を受給されている方などは、後納制度の利用はできません。

【問い合わせ先】

国民年金保険料専用ダイヤル

☎ 0570-011-050

受付時間

月曜日	午前8時30分～午後7時
火～金曜日	午前8時30分～午後5時15分
第2土曜日	午前9時30分～午後4時

※月曜日が祝日の場合は、翌日以降の開所日初日に午後7時まで受け付けます。

※祝日（第2土曜日を除く）、年末年始はご利用いただけません。

国勢調査 2015



平成 27 年 10 月 1 日に国勢調査が行われます。調査のご協力をお願いします。

国勢調査は、日本に住んでいるすべての人及び世帯が対象です。住民票の届出に関係なく、現在住んでいる場所（避難している場所）で世帯ごとに調査することになります。

調査結果は、さまざまな法令で使われるほか、社会福祉、雇用対策、生活環境整備、災害対策など、私たちの暮らしのために役立てられます。

平成 27 年国勢調査の特徴

- 東日本大震災後初の調査であり、大震災及び原発事故の影響による人口移動などを把握する重要な調査です。
- 今回の調査では、先にインターネットでの回答を受け付け、インターネットで回答されなかった世帯には紙の調査票を配布して調査を行います。9月10日から、調査員がインターネット回答のための書類をお配りしますので、9月20日までにインターネットでの回答をお願いします。

ICT きずな支援システム導入事業で配布しましたタブレット型情報端末も使えます。

- 皆様が避難されている住居に、避難先市町村から委嘱された統計調査員が訪問します。一部の応急仮設住宅等では、住民の方に調査員業務を行っていただきます。
- 記入いただいた調査票は、再度訪問した調査員に渡していただきます。お住まいの市町村によっては、郵送で提出することもできます。

※調査票への記入内容は、統計法により厳重に保護されますのでご安心ください。



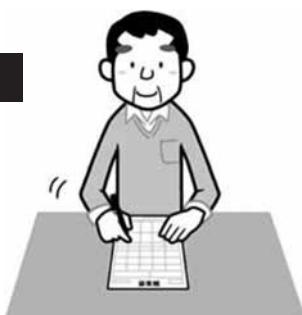
どんな項目について調査するの？

世帯員一人ひとりに関する項目

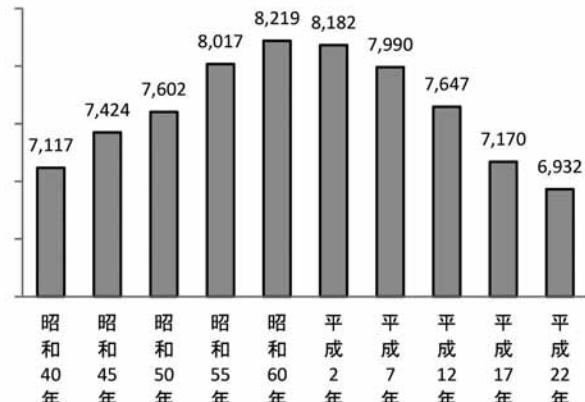
- ①世帯員の数及び世帯の種類
- ②氏名及び男女の別
- ③世帯主との続柄
- ④出生の年月
- ⑤配偶者の有無
- ⑥国籍
- ⑦現在の場所に住んでいる期間
- ⑧5年前（平成 22 年 10 月 1 日）の居住地
- ⑨9月 24 日から 30 日までの 1 週間の仕事
- ⑩従業地又は通学地
- ⑪勤めか自営かの別
- ⑫勤め先・業種などの名称及び事業の内容、本人の仕事の内容

世帯に関する項目

- ①住居の種類
- ②住宅の建て方



双葉町の国勢調査人口推移



かたり調査にご注意ください



- 国勢調査では、金銭を要求することはありません。また、銀行口座の暗証番号やクレジットカード番号などを聞き取ることもありません。
 - 国勢調査をよそおった不審な訪問者や、不審な電話・電子メールなどにご注意ください。不審に思った際には、回答しないで、速やかにお住まいの市区町村にお知らせください。
 - 調査員は、その身分を証明する「国勢調査員証」を携帯しています。
- ※一部の地域では、調査員事務を「建物を管理する事業者等」に委託しており、「国勢調査業務委託証明書」を携帯しています。

国勢調査クイズに答えて賞品を当てよう！

福島県統計協会及び福島県では、平成27年福島県国勢調査クイズを実施します。

次の3問全てに正解した方の中から、県産品などの賞品が総勢145名様に当たります。

ふるって御応募ください。

◇クイズ

第1問：国勢調査は〇〇月1日時点の状況を調査する。

- ①10 ②11 ③12

第2問：国勢調査のイメージキャラクターは「〇〇〇〇くん」である。

- ①センサス ②コクセイ ③キビタン

第3問：国勢調査調査票の一番最初の質問項目は「〇〇〇の数」である。

- ①世帯員 ②調査員 ③就業者

◇賞品

A賞	県産品（2万円相当）	5名
B賞	ふくしまの米「味くらべセット」(5,000円相当)	20名
C賞	5,000円の宿泊券	20名
ラッキー賞	500円の図書カード	100名

◇応募資格 福島県民（福島県にお住まいの方又は福島県に住民票がある方）

◇応募期間 9月10日（木）～10月12日（月）

◇応募方法

①クイズの答え（番号で回答）②郵便番号③住所（県外在住の方は県内の住民票上の住所を併記）
④氏名⑤年齢⑥性別⑦職業⑧電話番号⑨国勢調査の回答方法（調査票又はインターネット）⑩希望する賞品（A賞～C賞）を明記の上、はがき又はホームページからご応募ください。

※11月中旬頃、クイズ正解者の中から抽選により当選者を決定し、当選者の氏名は福島県のホームページで公表されます。ただし、ラッキー賞は賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

◇応募・問い合わせ先

〒960-8043 福島市中町8-2 自治会館6階

福島県統計課内 福島県統計協会 福島県国勢調査クイズ係

☎ 024-521-7143

HP [ふくしま統計情報BOX](#) [検索]



老人保健施設へのボランティア訪問、避難者支援など、いわき市で活動している女声合唱団コール・フロイデのコンサートが開催されます。

コール・フロイデ 5周年記念コンサート Chor Freude

日時：9月27日（日）

開場 … 13:00

開演 … 13:30

場所：いわき市文化センター

大ホール

【問い合わせ先】

080-5227-5232（中田）

—お詫びと訂正—

改訂版を作成し、過日、皆さまへお配りさせていただきました「双葉町への立入りのしおり 平成27年6月（第4版）」に記載しました内容に誤りがありましたので、下記のとおりお詫びして訂正いたします。

記

- 1ページ目のページ数「1」が表記されておりませんでした。
- 55ページから58ページまで記載の、双葉町民以外の方がご使用になる「お墓参り専用通行証」の様式見本及び記載例につきまして、スクリーニング場再編についての情報が、改正前の様式のままになっていました。

正しい様式情報につきましては、

双葉町公式ホームページ > 一時立入り > 双葉町民以外の方のお墓参りについて

(<http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/3838.htm>) のページ下部、申請様式からご確認をお願いいたします。

教育長からのメッセージ

芸能、芸術、プロフェッショナルの力！

双葉町の伝統芸能

正月恒例のダルマ市で毎年披露される、**新山の神楽**、**標葉せんだん太鼓**そして**前沢女宝財踊り**。双葉町の伝統芸能の素晴らしさに感動し、高揚した気持ちで新年を迎えることに感謝し、同時にこれらの伝統芸能がいつまでも続くことを願う気持ちは、多くの町民が抱く共通の思いではないでしょうか。

他にも本町の伝統芸能として、**山田のじゃんがら念佛踊り**があります。昨年、いわき市アリオスで「**じゃんがらフォーラム**」があり、そこで本町の山田のじゃんがら念佛踊りが披露されました。初めて見る本町の伝統芸能で、しかもいわき市の他のじゃんがら念佛踊りとは異なる、独特のリズム、パフォーマンスに驚き、感嘆しました。ぜひ、多くの町民の皆さんに見てもらいたいという思いで、8月の「集まれふたばっ子2015」でも披露してもらいました。「初めて見た」「実際に面白い」等の感想が寄せられました。

また、「**相馬流山踊り有志の会**」も結成され、様々なイベントで伝統の踊りを披露しています。本町の伝統芸能の素晴らしさを改めて認識させられると同時に、これらの伝統芸能の継承の必要性、重要性を強く感じます。町立学校の開校に伴い、後継者育成の課題も浮かんできています。

音楽、芸術、文学に触れる

音楽や美術等においても、多くの町民の方々の活躍が見られます。いつも美しい歌声、演奏で町民や地域住民を魅了する**コーラスふたば**、**J Aスマイル大正琴**の皆さん、そして風雅な箏演奏を披露している大学生の**大川義秋さん**。音楽の素晴らしさを心底堪能しているのは自分だけではないと思います。

他にも**写真**、**絵画**、**書**、**篆刻**、**俳句や短歌等**、様々な分野で実に多くの町民の皆さんの音楽、美術、文学を愛する心と熱意が表現され、それらを鑑賞する町民の心を豊かにし、そして町民同士の絆の維持を深めていると思います。さらには、町民の皆さんの生きがいの追求でもあるように思います。

プロフェッショナルの精神

音楽家やアスリートの持つ使命感、奉仕の心についても考えさせられました。被災者を癒したいという想いで、わざわざドイツから駆け付け演奏会をプレゼントしてくれたプロの音楽家達、子ども達のためにと、町立学校に自分の所有するグランドピアノを寄付したプロの声楽家。そして、オリンピック陸上競技に出場した**為末大氏**や自転車競技に出場した**本町出身の渡邊一成氏**、そしてサッカーの日本代表**川島永嗣氏**も町立学校を訪れ、それぞれの経験談を通じて子ども達を激励してくれました。子ども達にとって、**プロフェッショナルの精神に触れた歓び**は何にも代えがたい財産であり、「生きる力」も高めてくれるはずです。

芸能、芸術の持つ価値、力、プロフェッショナルの素晴らしさを様々な場面で感じることができます。また、震災後の町民の皆さんとの心の復興にもつながるものではないか、と期待しています。

双葉町教育長 半谷 淳



▲コーラスふたばの皆さん



▲山田のじゃんがら念佛踊り

県民スポーツ相双地域大会

家庭バレー、壮年ソフトボール 第3位

8月2日、南相馬市を会場に第68回福島県総合体育大会県民スポーツ相双地域大会が開催されました。

相双地方の9市町村から約300人が出場し、壮年ソフトボール、9人制バレー、卓球、ソフトテニス、バドミントンの5競技で熱戦を繰り広げました。

双葉町からは、9人制バレーと壮年ソフトボールの2競技に出場しました。

開会式では、相双スポーツ功労賞の表彰式が行われ、渋谷容寿さん（細谷）、菊池直子さん（新山）、井上啓之さん（長塚二）が表彰されました。

9人制バレーは、石神中学校を会場に2つのブロックに分かれてリーグ戦が行われ、第1試合は浪



江町チームと対戦し、セットカウント2対0で勝ち進みました。第2試合は相馬市に惜敗したものの、3位決定戦で富岡町に勝利し、第3位の成績を収めました。

壮年ソフトボールは、北新田野球場を会場にトーナメント戦が行われ、2回戦で南相馬市と対戦し、惜敗しましたが、第3位の成績を収めました。

○9人制バレー

優勝…相馬市、準優勝…南相馬市、第3位…双葉町

○壮年ソフトボール

優勝…相馬市、準優勝…南相馬市、第3位…双葉町、
大熊町選手の皆さん、暑い中での熱戦、大変お疲れさまでした。



双葉ふれあいクラブから 双葉町民ゴルフ大会 のお知らせ

- ・実施日… 10月4日(日) 小雨決行
- ・場所… いわき市サラブレットカントリークラブ
いわき市渡辺町上釜戸字上ノ代245
☎ 0246-56-0123
- ・参加人数… 40人程度
- ・参加費… 13,000円(プレー代、参加費、昼食代、)
※当日、ゴルフ場へお支払いください。
- ・受付… 双葉ふれあいクラブ事務局
☎ 0246-38-3325
FAX 0248-21-6188
 - ・組み合わせ希望も受け付けます。
 - ・組み合わせとスタート時間は申し込み受付後に郵送します。
- ・締め切り… 9月18日(金)まで
- ・参加資格… 双葉町民または現在町事業所に勤務している方、もしくは平成23年3月11日当日町事業所に勤務していた方
- ・競技方法… ①18ホールストロークプレー
②スルーザグリーン6インチプレース
③新ペリア 9ホール

第2回町民作品展覧会 作品募集のお知らせ

町民作品展覧会は、町民の皆さんのがごろ制作した作品を広く公開できる場所です。作品を出品してみませんか。

◇郡山会場

日時：10月20日(火) 13:00～17:00
21日(水) 10:00～15:00

場所：郡山市ビッグアイ6階 展示室

※第28回双葉町総合美術展(双葉町芸術文化団体連絡協議会主催)と同日開催

◇いわき会場

日時：10月24日(土) 9:30～16:30
25日(日) 9:30～15:30

場所：いわき市立勿来体育馆

※第45回勿来地区総合文化展会場内の双葉町民展示スペースで開催

【申し込み】期間：9月7日(月)～30日(水)まで

申込先：双葉町教育委員会 教育総務課

申込方法：申込用紙に記入のうえ教育総務課へ持参、郵送またはFAXによる。※申し込み用紙はいわき事務所、各支所、各仮設集会所等で入手。

部門：短歌・俳句・絵画・水墨画・刻字・書道・写真・華道・山野草・手芸等

【問い合わせ先】教育総務課☎ 0246-84-5210



還暦同級会に集う

7月18日、郡山市磐梯熱海温泉において、昭和45年度双葉中学校卒業生が還暦を祝い同級会を一泊二日の日程で開催しました。全国から52人の参加があり、遠くは滋賀県大津市や愛知県名古屋市からかけつけた方もいて久しぶりの再会を懐かしみ、喜び合いました。

受付で名札をもらい、同級会が始まりました。

幹事の高橋啓二さんから「一昨年より準備を始めましたが、避難生活による離れ離れのため同じメンバーでの打合せが困難な状況でした。それでも還暦という節目の同級会のため熱い想いで打ち合わせを重ね、この日を迎えることができ、うれしさで胸がいっぱいです」とのあいさつがありました。

中学校卒業から45年という月日の経過は、名前と顔がなかなか一致しないなど思い出すまでに時間がかかりました。お酒を酌み交わしながら話が進むにつれ、部活動や生徒会活動など中学校時代の様々な思い出が蘇り、同級会は大変盛り上がり楽しい時間を過ごしました。

翌日は、幹事の方々に感謝しながら、今度会う時まで健康に気をつけて元気でいようと固く約束し合い、それぞれ帰路につきました。

※北村雅様（三字）より写真、記事のご提供をいたしました。

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しております。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、（農産物・土壤モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技術情報、資金・事業の紹介など）をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

9月の日程は右記のとおりです。

※町村問わずに最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます（携帯電話のパケット料金にはご注意ください）

※時間：午前10時～正午

9月 3日(木)	富田町仮設住宅 (郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所)
9月 4日(金)	葛尾村役場三春出張所 (三春貝山多目的運動公園管理棟)
9月 10日(木)	双葉町役場いわき事務所 (いわき市東田町地内)
9月 11日(金)	浪江町役場二本松事務所 (二本松市平石高田第二工業団地内)
9月 17日(木)	大熊町役場会津若松出張所 産業建設課内

【問い合わせ先】相双農林事務所双葉農業普及所

☎ 0240-23-6474

FAX 0240-27-4747

川内普及所（川内村役場内）

☎ 0240-38-3434

**国指定重要無形
民俗文化財**

相馬野馬追祭

**相馬武士の魂を胸に
いざ出陣！**



本年度出場者 (敬称略)



副執行委員長代理 半谷 淳



軍者 谷津田光治



軍者 中川健治



御先乘 山本秀次



御使番 中川 準



騎馬隊 田口智彦

7月25日から27日まで3日間にわたり、南相馬市雲雀ヶ原祭場地において国指定重要無形文化財「相馬野馬追祭」が開催されました。一千有余年の伝統を誇る祭りは、好天に恵まれ、出場騎馬数も震災後最多となつた昨年と同じ450騎となり、大勢の観客で賑わいました。

今年は、相馬家現当主の次男である相馬陽胤氏が被災地激励のため宇多郷の出陣式に出席した後、標葉郷の出陣式に合流するという特別な配慮がなされました。

双葉町では、今年は震災後最多となる総勢6騎の騎馬武者が標葉郷から力強く出陣して各騎馬武者が赫々たる武勲をあげました。

出陣された皆さん、震災と原発事故後も途絶えることなく守り続けた年も、今年も鎧兜で身を固めた五郷（宇多、北、中ノ、小高、標葉）から勇ましい騎馬武者が岡山・雲雀ヶ原祭場地を目指して威風堂々の「武者行列」、勇壮果敢な「甲冑競馬」や「神旗争奪戦」など天下無比の戦国絵巻が再現され、観客席からは大きな拍手が沸き起きました。

てきた誇りを後世に引き継ぐことを誓うとともに相馬野馬追祭を通して、ふるさとの復興を願いながら、3日間の日程を終えました。

いわき・まごころ双葉会 平七夕まつりに出展 —特別賞を受賞—



いわき市を代表する夏祭りとして、また、平の夏の風物詩として親しまれている伝統の平七夕まつりが8月6日から8日まで、いわき駅前商店街において開催されました。

目抜き通りにはJRいわき駅周辺の商店や事業所、いわき市で避難生活を続ける広野、楢葉、富岡、大熊、浪江、双葉の6町の皆さんが復興と感謝の願いを込めた七夕飾りも飾られ、浜風に揺れる中、大勢の見物客で賑わいました。

双葉町の七夕飾りは、7月10日にいわき・まごころ双葉会の女性部が中心となって、赤、黄、紫の3組を製作したものです。「ダルマ」のイラストを配色し、さらに「ふたば」の文字を記した華やかな出来栄えで、平和通りに掲げた飾りの鮮やかさは、ひときわ目立ち、特別賞を受賞しました。

また、通りのところどころには笹竹に願いごとを書いた短冊が飾されました。町民の皆さんや町職員、まごころ双葉会の会員の皆さんから寄せられた願いごとが書かれた短冊150枚が飾されました。特に家族の健康、ふるさと双葉町の復興、将来の夢などの願い事を書いた短冊が多く、印象的でした。

3年連続の出展で、平和通り商店会ともすっかり顔なじみとなり、物心両面にわたる支援をいただき、さらに、来年の参加もお願いされたりと地域との交流が深まり、様々な分野での交流の輪が広がることが期待されています。

3日間にわたり開催された七夕祭りの会場には、いわき・まごころ双葉会の役員と三々五々訪れた町民の皆さんが、美しい七夕飾りを見ながら会話が弾み、絆と交流がさらに深まったようでした。

※石田翼様より記事のご提供をいただきました。



▲製作した七夕飾りの前で、いわき市民の方々といわき・まごころ双葉会の役員の皆さん

友好町 京都府京丹波町との交流

8月10日から12日、友好町である京都府京丹波町から野球スポーツ少年団の子どもたちと京都府立須知高校生、保護者の方々約30人がいわき市を訪れ、双葉町立中学校の生徒やサポートセンターひだまりの利用者の皆さんとの交流を行い、友好を深めました。

11日は町立学校仮設校舎体育館において、スポーツ交流、南台仮設住宅集会所で会食交流、サポートセンターひだまりで利用者との交流が行われました。

開会式では、半谷淳教育長が「京丹波町の皆さんを心より歓迎いたします。昨年8月に完成した新しい体育館で皆さんと交流ができるることを大変うれしく思います。昨年の修学旅行では和知中学校の皆さんによる伝統芸能や合唱などを鑑賞させていただきました。この交流会がお互いの町にとって新たな歴史や伝統を作る良い機会となることを願っています」とのあいさつがあり、伊澤史朗町長がお祝いの言葉を述べました。

続いて双葉中学校2年生の澤上美羽さんが歓迎の言葉を述べました。

お互いに自己紹介をした後、双葉中学校の生徒がプロジェクターを使って双葉町や町立学校の様子の紹介を行い、双葉音頭を披露しました。さらに、仮設校舎の案内をしました。京丹波町からは手作りの壁掛けやスポーツ少年団の皆さんが丹精込めて作ったジャガイモ、須知高校生がジャガイモを加工して作った「いももち」などが贈られました。

ニュースポーツのペタビンゴをチームに分かれて楽しんだ後は、南台仮設住宅に移動して京丹波町のジャガイモを入れて作ったカレーを会食しました。

昼食後は、ひだまりの皆さんと言葉遊びのゲームや手遊びなどをして楽しいひと時を過ごすことができ、温かい友好の輪が大きく広がりました。



▲歓迎の言葉を述べる双葉中学校2年澤上美羽さん



▲交流への思いを述べる蒲生野中学校3年の小森雄飛くん



▲ペタビンゴでスポーツ交流



▲ひだまり利用者の皆さんとの交流

第9回 市町村対抗福島県軟式野球大会

開会式：9月12日(土)15:00
あづま球場

試合日：(第一試合)
9月19日(土)8:30～
双葉町対本宮市

会場：しらさわグリーンパーク野球場(本宮市)

一選手名簿(敬称略)							
1. 加藤 秀樹(監督兼選手)	10. 加藤 裕樹	19. 中川 涌斗					
2. 伊澤 慶昭(主将)	11. 中川 雅斗	20. 門馬 雄介					
3. 里見 淳	12. 板井 克也	21. 渡辺 真宏					
4. 平賀 健太	13. 青田 隆志	22. 栗田 健一					
5. 大友 裕太	14. 伊澤 亮	23. 山田 琢磨					
6. 谷津田淳之	15. 伊藤 雅明	24. 橋本斗輝也					
7. 加村 晴也	16. 佐藤 治	25. 井戸川直樹					
8. 高萩 文孝	17. 菊地 光浩						
9. 石上 崇	18. 石澤 拓也						

皆さんの
応援よろしく
お願いします!

—健康生活のススメ—

食事のエネルギーって？



車がガソリンで動くように、食事のエネルギーは私たちの体を動かすもとになります。私たちの身の回りには、エネルギーという言葉よりも“低カロリー食”や“脂は高カロリー”や“カロリーゼロ”などカロリーという言葉になじみがありますね。食事のエネルギーは、キロカロリー (kcal) という単位であらわされます。

食事から摂るエネルギーが体を動かすエネルギーより多い状態が続くと、体重が増えます。運動や激しい肉体労働をしない場合、エネルギー消費量は1日体重1kgあたり30-40kcalといわれています。体重が60kgの場合、1,800-2,400kcal、これが食事からとるエネルギーの必要量になります。

ただし、実際にはその日の活動状況や、男女差や個人差があります。また私たちの食生活は食べ過ぎる日もあれば、少なめに終わる日もあります。日々食べている量が適切かどうかは、体重やBMI(体格指数、Body Mass Index)の変化をはかるのがもっとも簡単で的確な方法です。

BMIは体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)で求められます。望ましいBMIは年齢別に右下のように示されています。今のBMIが目標を上回っていれば、消費するエネルギーよりも食事から摂るエネルギーが多く、体重を減らした方がいいということになります。そのために、私たちは運動をして消費エネルギーを増やしたり、食事の量や質を見直して摂取エネルギーを調整したりすることができます。目標の範囲内に入るようにしたいですね。

○コーンクリームスープ (2食分)



エネルギー (1食あたり)
約150kcal

<材 料>

- ・あさり (缶) …40 g
- ・じゃがいも…1個
- ・さやいんげん…5本
- ・しめじ…20 g
- ・コーンクリーム…大さじ3
- ・コンソメ…1/2個
- ・牛乳…120cc
- ・水…200cc (片栗粉小さじ1)

<準 備>

さやいんげんはすじをとり、1cm長さに切る。じゃがいもは皮をむき1cmの角切り、水にさらす。

<作り方>

- ①さやいんげん、じゃがいもは容器に入れて、電子レンジ(600W)で1分半加熱する。
- ②鍋に水(あさり缶の汁もあれば加える)とコンソメを入れて火にかけ沸騰したら、じゃがいも、しめじ、さやいんげんを入れる。あさり、コーンクリーム、牛乳を混ぜて入れ、ひと煮立ちさせる。
- ・とろみをつけるため片栗粉を加えても、おいしくいただけます。

簡単レシピ

○ししゃもの南蛮漬け風 (2食分)



エネルギー (1食あたり)
約140kcal

カレー粉…小さじ1/2、だし(顆粒)…小さじ1/3
唐辛子(お好みで)

<材 料>

- ・ししゃも…8尾
- ・玉ねぎ…1/2個
- ・ニンジン…1/2個
- ・パプリカ…1/4個

調味料

(酢…小さじ3、しょうゆ…小さじ2、砂糖…小さじ1)

<準 備>玉ねぎはうす切り、にんじん・パプリカは細切り。調味料はあわせておく。

<作り方>

- ①耐熱容器にししゃもをならべ、刻んだ野菜を上にのせる。調味料を回しかける。
- ②ラップをかけて、電子レンジ(600W)で5分加熱する。調味料が全体にかかるように混ぜて、しばらく置いてから食べる。
- ・ししゃもはもともとやわらかいので、30分も漬け込んでおけば味がします。

年齢

18~49歳

目標とするBMI

18.5~24.9

50~69歳

20.0~24.9

70歳以上

21.5~24.9

体重(kg)

身長(m)

身長(m)

$$\text{BMI} = \boxed{\text{体重(kg)}} \div \boxed{\text{身長(m)}} \div \boxed{\text{身長(m)}}$$



消費エネルギー

摂取エネルギー

エネルギーは摂取と消費のバランスが重要

福島県からのお知らせ

—防災林造成事業に係る調査・測量及び用地調査について—

長期にわたる避難生活を余儀なくされている皆さまにおかれましては、心よりお見舞い申し上げます。また、本県の森林・林業行政に対し、日頃より御理解と御協力を頂き、感謝申し上げます。

さて、県では、双葉町からの要望を受け、下記の図の赤色着色地において、海岸防災林を整備する事としております。

つきましては、詳細な計画策定に先立ち、現地測量調査を下記のとおり実施するため、**計画地とその周辺地への立ち入り及び皆様の所有地内にやむを得ず測量仮杭等を設置する場合がございますので、御理解と御協力賜りますようお願い申し上げます。**

なお、設計概要がまとまりましたら、各行政区単位で説明会を開き、御意見等を頂きながら、詳細設計を進めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

記

- 1 調査期間 平成27年8月下旬～平成28年3月31日
- 2 調査箇所 「双葉地区」の計画地及びその周辺
- 3 調査業者 國土防災技術株式会社 福島支店 責任者 熊井 直也
☎ 024-555-0255(代表)

ご協力よろしく
お願いします

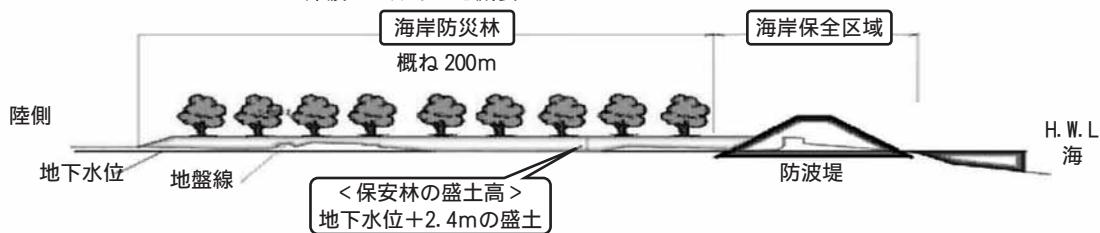


【調査・立入区域】



防災林計画施工断面図(模式図)

海からの風・潮・砂などから後背地を守る
津波エネルギーを減衰させる



【問い合わせ先】相双農林事務所 森林林業部 森林土木課

☎ 0244-26-1184
FAX 0244-26-1216

気づく 身につく 自然のみかた

第507回 NACS-J自然観察指導員講習会・福島県のおさそい 主催：（公財）日本自然保護協会・福島県自然保護協会・NPO法人わかば自然楽校

1978年から変わらぬ人気を博すNACS-J自然観察指導員講習会、あなたも参加し、自然を守る力になりませんか。自然保護の考え方や事前観察の手法を学ぶなど、1泊2日の充実したプログラムで自然の「みかた」を身につけます。



- 会 場 国立磐梯青少年交流の家 ☎ 969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町五輪原7136-1
(現地集合・解散) ☎ 0242-62-2530
- 開催日 10月24日(土)～10月25日(日) 雨天実施
- 費 用 10,000円 (自然観察指導員登録料、NACS-J個人会費、保険料、テキスト代、宿泊食費1泊4食を含む)
※通常の参加費は16,700円、講習会開催日に罹災証明または被災証明のコピーの提出を条件として25名までは参加費が10,000円になります。ただし、申込者が25名を超える場合は抽選になります
- 定 員 60名 (申込多数の場合抽選・申込期間終了後10日以内に当落に問わらず郵送で結果を通知します)
- 対 象 ・満18歳以上で、1泊2日の全てのプログラムを受講できる方・自然保護教育の必要性を認識し、自然観察活動の推進に意欲があり、できるところから実践の第一歩を踏み出す意欲のある方、または現在活動されている方
- 申込期間 9月7日(月)～9月28日(月)
- 申込方法 ①申込書に記入して郵送、またはメール ②ホームページの専用フォームで申し込む
「自然観察指導員講習会」
- 【問い合わせ先】
NPO法人 わかば自然楽校 ☎ 960-0101 福島市瀬上町字桜町1-11-6 2号 五十嵐方
メールアドレス igabo2555@yahoo.co.jp

福島環境再生事務所からのお知らせ

中間貯蔵施設について

◇実施中の試験輸送（パイロット輸送）（8月20日現在）

- ・棚葉町（7月17日～9月下旬まで（予定））、郡山市（7月27日～9月下旬まで（予定））からの双葉町保管場への試験輸送（パイロット輸送）を行っています。
- ・浪江町（6月23日～8月4日まで）、葛尾村（6月26日～8月6日まで）からの双葉町保管場への試験輸送（パイロット輸送）は終了いたしました。

◇保管場及び陳場下交差点の放射線監視

- ・除染土壤等の搬入による空間線量の増加はないことが確認されています。今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。
- ・中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のJESCO（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のHPで公表しております。

(URL) http://josen.env.go.jp/chukanchozou/situation/monitoring_result

【問い合わせ先】

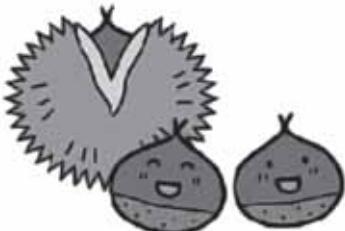
福島環境再生事務所 中間貯蔵施設等整備事務所 調査設計課 ☎ 024-563-1293



生涯学習で自分みかき・仲間づくり

教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

生活学級・婦人学級・スポーツ等の日程

日	月	火	水	木	金	土
		1 ○梅檀婦人 学級(福島市) 食事会 ◆しらかわ生活 学級(白河市) 紙芝居教室② 郭内第二応急仮設 10:00~12:00	2	3	4 ◆印・・・生活学級 ○印・・・婦人学級	5
6	7 	8 ○すみれ婦人 学級(いわき市南) 料理教室	9 ◆かぞ生活学級 (埼玉県加須市) 紙芝居教室 ふたば交流広場 13:30~15:00	10 ○桜婦人学級 (いわき市北) 食事会	11 ◆いわき南生活 学級(いわき市) 紙芝居教室② ふたばーく 10:00~12:00 ○ひまわり婦人 学級(白河市) ウォーキング 南湖公園 10:00~	12 ○たんぽぽ学級 (郡山市) 現地研修 新潟市 軟式野球 開会式 福島市あづま球場 15:00~
13	14	15 ○ひめ萩婦人 学級(仙台市) 市内巡り	16 ◆ふくしま生活 学級(福島市) 紙芝居教室② アオウゼ大活動室1 13:00~15:00	17	18	19 軟式野球 第1試合 本宮市しらさわ グリーンパーク 8:30~
20	21	22	23	24 ○はなみずき 婦人学級 (加須市)	25	26
27	28	29 ◆こおりやま 生活学級 (郡山市) 紙芝居教室 せんだん広場 13:00~	30 ○しらゆり婦人 学級(南相馬市) そば打ち教室			

生活学級では、「ふたばの昔ばなし」を活用した郷土文化教室を開催いたします。
参加希望の方は当日、会場に直接お越しください。

双葉町社会福祉協議会から ～健康運動教室、社協サロンのお知らせ～

こことからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。
お気軽にご参加ください。



9月開催予定日

開催場所	住所・連絡先	開催月日	時間
健康運動教室 (健康講話、相談、運動機能の維持・向上等)			
福島市 北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小原田 8-1 024-573-2598	9月 3日(木) 9月 17日(木)	13:30 ~ 15:00
白河市 郭内第二仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 080-6290-5930 (担当:開発)	9月 8日(火)	10:00 ~ 11:30
双葉町コミュニティ施設 せんだん広場	郡山市御前南 2 丁目 73 024-983-1861	9月 28日(月)	14:00 ~ 15:30
郡山市 富田町若宮前応急仮設住宅集会所	郡山市富田町字若宮前 15 024-983-9420	9月 28日(月)	10:00 ~ 11:30
南東北総合卸センター 2階	郡山市喜久田町卸 1 丁目 1-1 024-973-5291	毎週火曜、水曜日 (祝日除く)	13:30 ~ 15:00

社協サロン (健康講話、相談、趣味、生きがいづくり交流等)

会津若松老人福祉センター	会津若松市城東町 14-52 0242-26-6666	9月 14日(月)	10:00 ~ 14:30
白河市郭内第二仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 080-6290-5930 (担当:開発)	9月 2日(水)	10:00 ~ 14:30
喜久田ふれあいセンター (喜久田公民館)	郡山市喜久田町堀之内字下川原 1 024-959-2205	9月 11日(金)	10:00 ~ 14:30
いわき市小名浜公民館 1階中会議室	いわき市小名浜愛宕上 7-2 0246-38-7105 (担当:渡辺・野村)	9月 29日(火)	10:00 ~ 14:30

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 024-973-5291 【担当:泉田】

消防署からのお知らせ

～出火防止をお願いします～

双葉郡内では、「たき火」や「線香」が原因による火災が発生しています。下記の項目に注意しましょう。

- 仏壇から離れる時は、必ずロウソクを消しましょう。
- 着衣に着火した事例があります。ロウソクなどの火気には触れないように気をつけましょう。
- 「避難指示区域」の各地域については、「火災発見の遅れ」や「延焼拡大の恐れ」が懸念されます。「たき火」はしないようお願いします。

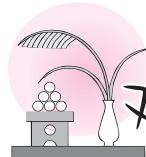
火事と救急は119

防災ハザードマップの確認をしましょう！

「台風」や「ゲリラ豪雨」などの自然災害が増えています。防災ハザードマップは災害の種別や市町村ごとに異なりますので、各市町村ホームページなどで「避難場所」や「危険個所」を確認しましょう。

また、「防災グッズ」を持っている方は、保管場所や中味を確認し、非常食品などの賞味期限を確認してください。持っていない方は、緊急のために備えておきましょう！





双葉の風たより

全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りの一部をご紹介いたします

関根 初巳（長塚一）

- 天を掃く 真竹しなやか 初夏の風
- 水遊び どの子の声も かがやきて
- ゆるやかに 団扇つかひて 聞き上手

遠藤 シゲヨ（長塚一）

- 雨続き 川辺に競う 花菖蒲
- 詰びついた 恋よみがえる 梅雨じめり
- 初夏の 待ちに待つたる 砂遊び

藤田 博司（下条）

- 草刈りて 讓りし過去の 前田川
- 口紅を 黄色にぬりて 燕の子
- 雲切れで 梅雨夕焼けに 昏れなずむ

袖原 秀康（三字）

- 寝汗かき 目を覚ましたる 秋彼岸
- いっどきの 雷雨に過ごす 良きタベ
- 一時帰宅 ひと一人なし 盆踊り
- 家族増え 我が家に盆の 来ぬままに

武内 恒雄（長塚二）

毎年、七月の声を聞く頃になると、相馬野馬追祭が心を駆り立てる。歳は幾つになつても少しも変わらない。遠く離れているとなおさらだ。若い頃は、私も参加し、神旗争奪戦で広い草原を疾駆したものだ。当時の肩章を今も大切にしまつている。

- 法螺貝の音に 駒がいななく 夏の草原
- 夕間暮れ 蛙鳴く声 青田風
- 蚊に喰われ 故郷の畦道 朝の露
- 夏の草原 三社五郷の 砂煙り

望郷の念 強ければ
生命ある限り 炎すや実るなり

待つ事も人生か

深緑 山背吹き抜け 雉子の途

迎え火を 焚いて先祖の 道標

みちしるべ

人のうごき7月分

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
荒木 翔太	7月17日	雅美・実和	羽鳥

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
國分 恵子	65	6月27日	長塚二
石澤 貢	67	7月5日	羽鳥
林 恵美子	82	7月5日	寺松
高崎 幸男	84	7月12日	長塚一
志賀 マキ	87	7月14日	山田
佐藤 信公	90	7月24日	郡山

<お詫びと訂正>

広報ふたば8月号に掲載しました記事の中に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P26 「ふるさと絆通信」

正 紺野 智也さん（下条）

誤 紺野 智哉さん（下条）

双葉町民の避難状況

（平成27年8月1日現在）

- 福島県内に避難されている方 4,047人
- 福島県外に避難されている方 2,950人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から
死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示
しています。

「人のうごき」については、連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。
なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。

0246-84-5202

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんのが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんのが声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まるこことを期待いたします。

記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信 第28号



「ふるさと絆通信」であなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、町民の皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

一想いを伝えるー

ふるさと絆通信は、株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が町民の皆さんとの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいている。

掲載する文章は、インタビューの内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はありません。

【問い合わせ先】 祕書広報課 ☎ 0246-84-5202



ずっと、ふるさと。双葉町。

やしろ
八城 盛さん
さかり

(下条)



●避難先●
福島県白河市



現在、私は白河市内で妻と母の3人で生活しています。近所には長男、長女が家族とともに暮らしています。

被災当時、私は双葉北小学校で校長を務めていました。そのため、震災発生直後から様々な対応にあたりました。大地震に襲われたとき、校内には多くの児童と教職員がおりましたが、けがをした者もいなかつたため、児童を保護者等に引き渡すことなど、全員が安全に下校できるよう注力しました。

学校は避難所になっていたため、並行して避難住民の受け入れを行いました。双葉北小学校は耐震補強工事が施されていたこともあってか、時間とともに避難者数が増加し、700人を超える皆さんのが不安な一夜を過ごしました。そうした中、北・南両小学校の教職員が協力して避難所の運営にあたりました。

避難所への入所にあたって、身を寄せた方々に氏名等を書いていただき、それをパソ

コンに入力し、収容者情報を入口に掲示しました。後になって分かったことですが、この氏名掲示を見て、家族などの安否を知ることができたという声も聞きました。震災直後の混乱の中、少しは皆さんのお役に立てたかと思っています。

震災発生翌日の未明までに、今後の避難所運営体制について一定の目途がつき、夜明けを待つて、一旦、北・南両小学校とともに教職員を帰宅させました。私も午前7時過ぎ自宅に戻り

ましたが、自宅内の状況を確認する間もなく避難指示が知らされ、すぐに学校に戻つて町外避難の誘導にあたりました。校舎内に残された住民がいないことを確認後、午後、自家用車で町を離れました。一方、妻は浪江小学校に勤務しており、私同様、児童の安全確保や避難所運営などのため帰宅できませんでした。震災発生の2日後、川俣町で家族と再会し、長女の嫁ぎ先である会津坂下町に向かいました。

震災直後の数日間は、教職員が携帯電話で連絡を取り合い、児童の安否・所在確認に努めました。双葉町が埼玉県内に集団で避難したことを報道で知り、新潟経由でさいたまスープアリーナや旧騎西高校に通いました。その後、双葉町は県内で小・中学校を開校できず、私をはじめ町内の校長は、仮の勤務校舎を拠点に児童・生徒が通学している学校を訪問するといった就学支援業務にあたっていました。

平成24年3月、定年を迎えた38年間の教員生活に終止符を打ちました。身分は「双葉北小学校長」でしたが、職員も児童もいらない最後となり、複雑な気持ちでした。

被災から退職まで、仕事で県内各地を回りましたが、我が子たちとのつながりや生活しやすさ、孫たちの安全を考え、この白河市に居を構えました。夫婦とも体が元気なうちは「孫守り」をしながら過ごしていくこうと思っています。



おがわ たかひさ
小川 貴永 さん

(長塚二)

●避難先●
福島県郡山市
ふるさと
糸通信

平成26年3月まで、私は郡山市にある富田町若宮前応急仮設住宅の自治会長を務めていました。当初、私の父が自治会長でしたが、避難後から強いられている生活環境の悪化により認知症を発症するなど健康を奪われてしまつたため、責務を果たすことができなくなり、その代りに私が引き受けました。

しかし、父の介護など、まず守らなければならぬ自分自身と家族の生活を維持することや自治会長になる前から続いている被害回復に向けた活動をおそろかにすることができないため、同3月で自治会長を辞めさせていただきました。

現在、自治会長が不在となつていていた状態ですが、そもそも避難後に発足した自治会は、未曾有の原発事故による避難生活に対応する緊急対策の一つに過ぎないため、避難から4年以上経過する中で、自治会組織・活動の町条例化など、故郷のコミュニティを維持するために必要な「社会インフラ」の一つとして公の存在にすべきだと思つています。少なくとも、私が自治会長を務めていた2年半の間ですら、複数回、孤独死やあわや重症化寸前といったケースに遭遇し、昼夜休日を問わずその対応に当りました。しかし、このような住民の生命にかかる問題を、現行の自治会という任意団体がカバーするといふのは、決して正しい状態とは思えません。時間の経過につれて、大規模な復興公営住

宅や避難区域周辺のハコモノ建設といった話ばかりが目に付きますが、住民一人ひとりの命という基本的な問題の解決が放置されることには納得がいきません。

私は高校卒業後、進学や就職のため一度双葉町を離れましたが、長年、故郷の自然を生かした仕事をしたいと思っていたため、平成19年、それまでの勤務先を退職し、家族とともにUターンして、養蜂、果樹栽培、畑作などを始めました。果樹や畑作は、養蜂によって得られた蜂蜜を利用した加工品を造り、付加価値を上げることが目的でした。被災当時は、Uターンを見越してその前から植えた果樹が、ちょうど「桃栗3年、柿8年…」というように、良い具合で実を付ける状態になつたり、双葉町内で友人が運営していた直売所などで試験的に加工品等を販売するようにもなつていきました。しかし、原発事故により、それまで10年以上かけてきた手間と努力、そして、見えつづった成果を全て失つてしまいました。

現在、故郷を失つたことに伴う慰謝料を東京電力に求める集団訴訟に原告の一人として参加し、今年6月に行われた本人尋問に出廷しました。当たり前の存在である故郷を取り戻すために、どうしてこれほど大きな苦痛と労力、長い時間を要するのか納得がいかないながらも、法制度上は仕方がないことなどといふことを聞かせながら、被害回復に取り組んでいきたいと思つています。

たぐち ともひこ
田口 智彦 さん

(長塚一)



●居住先●

東京都江戸川区

絆通信



私は双葉町で生まれ、約7年前、父の仕事の都合で再び東京に移りました。当時、私は浪江高校2年生に在学しており、地元はすっかり「双葉」になっていたため、東京への再転居は、故郷に戻ることではなく、双葉というかけがえのない故郷との別れになってしまいました。

東京での生活を始めた当初、友人や知り合いも無く、街を歩くことや人に会うことすら気が引けるような日々が続きました。今思えば、その時初めて「孤独」という言葉の意味を知ったのかもしれません。また、転居先周辺の高校に転入することも可能でしたが、その一歩すら踏み出せなくなってしまいました。

また、親の扶養下にありましたが、幼い弟がいる中、学校にも行かず経済的負担だけをかけ続けるわけにはいかなかつたため、働きに出ることにしました。しかし、当時はまだ16歳で自動車の運転免許の取得など「18歳未満の壁」があり、就ける仕事も限られ、東京という大都市では仕事の種類や量は限りないとはいわれながらも職探しは大変でした。

そんな中、引越作業スタッフ募集の求人を見つけ面接を受けたところ採用され、働き始めました。それ以来、勤務先は3社目ですが、同じ業界で仕事を続けています。

震災発生時、私は東京都内で引越作業にあたっていましたが、テレビやラジオで故郷の惨状を知りました。また、東京での発災

後しばらくの間はガソリン不足になり、トランクを動かせず仕事に支障が出たこともありました。

偶然ではありますが、仕事では双葉町から埼玉県内に避難している方の引越作業に携わることがありました。引越は運送業です。家財という貨物を運ぶことが仕事ですが、単にモノを運ぶだけではなく、それまで生活されてきた場所での思い出、新しく生活を始める場所での希望など、人の気持ちに深く関わる仕事です。そのため、このお客様の引越作業が終わり、「ありがとう」の言葉をかけられたときには感慨深いものがありました。

7月25・26の両日、私は相馬野馬追に標葉郷の一員として参加させて頂きました。父が若い頃出陣していたことや叔父が震災の苦境下にあっても出陣し続けていることもあり、長年の夢を果たすことができました。出陣にあたって、その準備に約1年間費やしました。千葉県内のクラブに通い乗馬の練習を続け、鎧は父が着ていたものを使いましたが、馬具は買い揃えました。標葉郷内を練り歩くことはできませんでしたが、久々に触れた浜通りの風と相双地域の住民や観客の皆さんのが喜ぶ笑顔、土地を失つても故郷を思う気持ちや絆を守つていこうという野馬追関係者の意気込みのようなを感じ、勇気をいただくことができました。



たかの
高野 愛理 さん
あいり

(下条)



●避難先●
栃木県小山市

絆

通信

現在、私は白鷗大学教育学部発達科学科英語教育専攻の3年生に在学しています。勉強の一環として、今年7月13日に双葉中学校で行われた公開授業を参観しました。一般に高校までの教育は、極端な言い方をすれば「教える側の都合」により教育というシステムが構築され、いわば常識とされています。

しかし、いわき市で避難先に開校した双葉中学校で行われている授業を観て、その常識は必ずしも全てに当てはまるものではないのではと感じるようになりました。双葉町立小・中学校の設置にあたって、賛否や効率性を含め様々な意見があることは承知しています。少子高齢化により子どもの数が減り、かつ、社会の多様化、高度化、複雑化が進む中で、現在、双葉小・中学校で行われている少人数制教育は、一定の意義があるのではないかと感じています。そして、それは前記したような「教える側の都合」とは反対に「教わる側の都合」に合わせた教育システムに近い姿かと考えています。

平成23年3月、私は富岡高校国際コミュニケーションコースの1年生に在籍し、同1月から約1年間の予定でオーストラリアに留学していました。季節は逆ですが時差が無いため、ほぼリアルタイムで東日本大震災の発生を知りました。大津波が襲来したが、双葉町がどうなっているのかとい

う詳細な情報までは流れませんでした。原発事故について報じられるようになると、子どもの頃から「安全な存在」として当たり前だったものだけに、身の置きどころがないような不安に襲われました。その後、双葉町が集団で県外避難したことが報じられるようになり、放射能の危険から遠ざかることができたと安心した反面、もう双葉には戻れないとも思いました。しばらくして、津波の犠牲になつた同級生を弔問するため一時帰国しました。その時、旧騎西高校などを訪れましたが、皆さんの憔悴しきつた様子に言葉も出ませんでした。

その後、オーストラリアに戻りましたが、現地では故郷が原発事故による「ゴーストタウン」として有名になっていました。発災前まで日本のどこにあるのか説明することすら大変だった双葉町が、「ヒロシマ・ナガサキ」に並んだ存在になろうとは夢にも思いませんでした。平成24年末に帰国し、いわき市内で開校したサテライト校に通学しました。間もなく高校3年生になり進路について考えていたとき、担任から英語教育の道を勧められ、現在通っている大学を受験し入学しました。

大学生活も残すところ1年半を切り、将来の進路を考える時期に入りました。まだはつきりしてはいませんが、これまで勉強してきたことをベースに、人々の交流・理解に少しでも役立てるような仕事に就きたいと思っています。

ティーガーデンナチュール

代表
ひらの 平野みのりさん
(寺松)



●避難先●
栃木県那須町



私は原子力・火力発電所、石油プラント等における定期点検に携わる協力事業所を営んでいました。不安定な雇用環境の中で、安定した雇用と人材確保は難しい課題であり、65歳への定年延長が義務化される中、比較的高齢の従業員も安心して働ける環境づくりとして、造園、畑作、カフェといった事業を始めることにしました。

平成21年の夏から、会社近くの耕作放棄地を借りて開墾することから始めました。世間では耕作放棄地の積極的活用について話題になりますが、簡単なものでは無いと肌で感じました。土壤改良などについて、皆さんからアドバイスを頂きながら進めましたが、大変苦労しました。

土づくりに1年以上の時間をかけ、ようやく耕作開始の目途がついたため、私たちの事業に賛同し、野菜や加工品などの生産物を購入していた方々お客様を「サポーター会員」として募集しました。年4回、会員様には、賛同し入会して下さった御礼と活動の報告を兼ね、旬の農作物や加工品をお送りすることになつしていました。

平成23年1月、事業を開始を迎え、その2月、会員約30人の皆様に、キムチ、ピーナッツもち、干し大根、スコーン、りんごジャムなどの加工品を送らせて頂きました。おかげ様で評判も上々で、春夏に向けて走り出そうとしていた矢先に原発事故に遭い、その取り組みを進め

ることはできなくなってしまいました。

避難で町を離れてから各地を転々としました。埼玉県内に滞在中、栃木県の被災者生活支援説明会に参加し、良さそうな雰囲気だつたため、那須塩原市にアパートを借り生活を始めました。海が無いことと冬の寒さが双葉より厳しいことを除いては、住民の皆さんも温かく迎えてくれ、何となく故郷と似たような雰囲気を感じたため、土地を求め、自宅や店舗を建て、震災前の取り組みとまではいきませんが、今年4月、「庭園喫茶」を楽しめる店をオープンさせることができました。

故郷を離れ、無いものねだりをすればキリはありませんが、元気なうちは皆さんにほつとできる空間を提供できるよう、無理のない範囲で続けたいと思います。



〒325-0001
栃木県那須郡那須町高久甲6225-13
電話: 0287-73-8787
FAX: 0287-73-8784
営業時間: 午前10時~午後6時 水曜定休

ぼくの夢・わたしの夢



北海道札幌市立北園小学校 6年 八津尾 唯衣さん（長塚二）

私の夢は、プリザーブドフラワーの講師になることです。なろうと思ったきっかけは、花屋さんにあったプリザーブドフラワーの作品でした。きっかけとなった作品を初めて見たときに言葉ではうまく言えませんが、とても魅力を感じ、自分もいつかこんな作品を作れるようになりたいと思いました。

私は、もともと花が好きでしたが、生花はすぐに枯れてしまうので、いつまでも枯れないプリザーブドフラワーはもっと好きになりました。

今、私は1ヶ月に1回のプリザーブドフラワー教室に通っています。まずは、色彩感覚を身に付けて、きっかけとなった作品にどんどん近づいていけるように、一生懸命がんばっていきたいと思います。

今月のベストスマイル



編集後記



「集まれ! ふたばっ子2015」に参加した小学2年生の天野稚菜ちゃん(山田:写真左)と小林さくらちゃん(長塚一:写真右)の笑顔です。

記録的な猛暑となつた8月も終わり、実りの秋を迎えました。双葉町にいた頃には、黄金色の穂波が風にそよぐ風景を当たり前のよう見えていましたが、見ることができなくなつてしまつと、しなやかに垂れる稻穂が輝く双葉町の田園風景が無性に懐かしく思い出されます。今月の表紙は、相馬野馬追祭の本祭りで、雲雀ヶ原に向かう標葉郷御使番の中川準さんです。今年は半谷淳副執行委員長代理を先頭に6騎の騎馬武者が相馬武士の魂を胸に秘め、威風堂々の出陣を行いました。8月には、集まれ! ふたばっ子で「山田のじょんがら」が披露され、子どもたちがじょんがら踊りを体験しました。また、避難先の各自治会では盆踊りが開催されました。双葉町に伝わる伝統文化を絶やすことなく、未来につないでいくことが急務となつています。暑さは和らぎできたものの季節の変わり目は体調崩すことがありますので、お身体に気をつけてお過ごしください。

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>
○双葉町公式フェイスブックページ つなげよう つながろう ふたばのわ
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

